

技能系 紙飛行機・みかんの皮むき・ジェスチャー・伝言・にらめっこ
はやくち言葉・ゆびずもう

時の運系 ギャグ・じゃんけん・さいころ

~~~~~

**\* さわのび杯からの発展 \* \* \* \* \***

さわのび杯が始まった頃、種目は主に体力系のものばかりでした。このことによって学級の雰囲気はよくなっていきました。子どもたちも、さわのび杯を盛り上げようとがんばりました。その様子を見ていて、子どもたちの持つパワーは本物だと確信するようになりました。

二学期には、知能系、技能系の計画が出されるようになりました。また、「給食準備と後片付け」も種目として入れてみました。これを子どもたちに提案すると、いろんな意見が出されました。これまでと同じように勝敗を決めることは変わりはないのですが、そのことによって学級の問題を考えてみようという視点が加わるようになったのです。

また、今まで、人前では何もしようとしなかった男の子が、「原案を書きたい」と言って紙をもらいに来ました。さわのび杯は、学級を変える力を持っていると感じた瞬間でした。これはまさに、新しい形の学級文化であると確信しました。

さわのび杯の種目を行うことによって学級目標が意識されるようになったこと、種目に取り組む中で学級の雰囲気が変わり始めたこと、子どもたちが、自分にできることでさわのび杯に関わろうという意識を持つようになったこと、他の学級に文化を広げようとし始めたこと。ここまでが発展の第1段階です。

発展の第2段階として、さわのび杯が成功し続けているわけを考えさせました。子どもたちから出されたのは

- ・計画をつくるとき、自分中心ではなくみんなのことを考えてつくっているから。
- ・失敗しても誰も責めようということがないから。
- ・だれが実行委員になってもみんなが支えようとしているから。
- ・学級目標を意識して取り組んでいるから。

などでした。

-----  
2 第11回希望の会in山口，山口学級活動ネットワーク冬の学習会報告 その4  
-----

今回は「特活で楽しい学校づくり」ということで提案していただいた、北九州市立小石小学校校長の大庭正美先生の発表内容についてです。

大庭校長先生のお話は、特別活動にこだわった学校運営についてのものでした。そこには、「学校が一番評価されるものは特別活動であるということ。子どもの挨

拶、笑顔があふれている学校に務めたいし、児童も通いたいはず。また、だらしない学校より緊張感のある学校がいいはず」という大庭先生のポリシーが全体に漂っている、そんな話でした。

大庭先生の学校運営については、その基本的な構えとして次の5つのことがあるということでした。

☆「旗と歌を大事にする」

☆「いつもユーモアを忘れない」

☆「演出の効果を常に考える」

☆「汗と声を大切にする」

☆「異年齢集団活動を重視する」

これらのことについて、多くの映像にエピソードを織り交ぜながらお話をされました。これらを通して、特別活動でみんなが仲良くなれば集団規律は向上する。規律が向上すれば自ずと学習意欲も向上してくるということを熱く熱く語っていただき、まさに大庭ワールド炸裂！といった感じのお話でした。

その中で、特活の精神を生かした学校の歌を作られたということでした。その歌詞がすばらしいし、メロディも子どもたちが歌いやすいようにできていました。

大庭先生の話に、杉田調査官が「その次の校長にはなりたくないが、その学校の子どもではいたいと思った。その学校の先生は幸せだろうと思った」と言われましたが、最高のほめ言葉だなと思いました。

---

## 1 学級づくりの計画を立てよう その1

下関市立名池小学校 梶田崇晴

---

今回は、4月4日に行った春の学習会についての報告をお知らせします。

いよいよ2009年度が始まりました。

教育界は、数年前に始まった学力向上問題が、今年も猛威をふるいそうです。そんな中、私たち学級活動ネットワークでは、「学力向上は、子どもたちが安心して過ごせる学級があってこそ成り立つものである」という認識に立って学級づくりを大事にしていくように訴え続けてきました。

というわけで、この度は、学級づくりの設計図である学級経営案の書き方を学ぼうという企画で学習会を行いました。

### ◇なぜ「学級づくり」を重視するのか？◆◇

子どもたちは、学校にいる間、その多くの時間を授業で過ごします。“教師は授業で教育を語らなければならない”と言われる所以でもあります。しかし、次

のような意見も見過ごせません。

\*\*\*\*\*

よい学級があって初めてよい授業ができるのであって、この逆ではない。もちろんよい授業を作っていくことによってよい学級にしていくことができるのは確かだが、初めに「よい学級ありき」なのである。

安彦忠彦氏（早稲田大教授）

\*\*\*\*\*

個は集団とのかかわりによって育ちます。個性重視が叫ばれる今、学級集団づくりから目をそらすわけにはいかないのです。そこにいるだけで元気が出る学級こそが、子ども一人ひとりが生き生きとし、学ぶ楽しさを味わうことのできるものだと考えています。

◇「最近の子どもたちは変わった…」というけれど◆◇

「最近の子どもたちは…」という言葉で、子どもたちの様子を語る事が多くなりました。そこでは子どもたちのマイナス面を取り上げることが多くあります。例えば、人と関わることが下手になった、自分に自信をもてない、相手の気持ちが読めない、自分を制御できない、我慢強さが無い、マイナス思考である、自己中心的…。すべてごもつともです。生徒指導の名の下に、これらを改善していこうという動きもあります。いわゆる「対処療法的な生徒指導」といわれるものです。それはそれで大切なことです。しかし、それだけでいいのでしょうか？ 目の前の子どもたちを見ていて、そう感じる事が多くありました。子どもたちをよくよく見ていると、「昔の子どもとちつとも変わっていない部分」に気づきます。例えば、ほめられると喜ぶ、チャレンジすることを好む、友だちといっしょにやるのが好き、楽しいことが好き、得意なことをアピールしたがる、体験活動を好む、競争するのが好き…などです。この不易の部分にも着目していきながら、一人ひとりのよさを生かし、集団としての高まりを味わわせていくことが、子どもだけでなく、教師も「元気が出る学級づくり」につながるのではないのでしょうか。

◇「元気の出る学級」とは…◆◇

- \*一人ひとりの子どもが同じように大切にされている学級
- \*子どもたちが自由に意見を言い合うことのできる雰囲気を持った学級
- \*明るく楽しい雰囲気に満ちあふれた学級
- \*子どもたちが自ら学級づくりにかかわっていこうとする学級

◇スギタ流元気の出る学級づくりの5つのポイント◆◇

- 1：めざすゴールをはっきりさせること（目標の明確化）
- 2：学級に楽しく明るい雰囲気をつくること（プラス思考）
- 3：一人ひとりに役割を持たせること（役割意識）
- 4：お互いに認め合う雰囲気を大事にすること（相互理解）

5：一人ひとりに「おらが学級」という意識を持たせること（所属意識）

◇元気の出る学級づくりの8つのメニュー◆◇

- メニュー1：出会いの演出
- メニュー2：学級目標 ア・ラ・カルト
- メニュー3：笑顔と遊び心
- メニュー4：役割意識と組織
- メニュー5：話合いのシステム
- メニュー6：イベント活動
- メニュー7：豊かな発想のもとづくり
- メニュー8：家庭との連携

---

4 メルマガ編集部からのお知らせ

---

◆次号の予告◆◇◆

第75号は4月下旬ごろ発行予定です。

次号も、第1特集は「学級集会づくり」について、第2特集では「冬の学習会」についてお知らせします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は240名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

本メールマガジンでは、次のようなテーマで情報交換を行ってみようと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

\*こんな時、どうする？コーナー

学級での生活の中でのいろいろな場面を想定し、その時、どういう手立てをうてばよいか、についての実践を紹介してください。これまでに組み込まれたことのある実践もお待ちしています。

\*学級づくりで、はっ！とさせられたこと

長く学級担任をやっていると、自分のやり方が当たり前になってしまっていることに気づかされることがあります。それを教えてくれるのが子どもたちだったりします。そういう出来事や子どもたちのつぶやきを紹介してください。

\*子どもってすごいなあ！と思ったこと

子どもがもっているものって素晴らしいです。子どもたちといると、「子どもってすごいなあ」と感心させられることが多々あります。子どもたちのそういう姿を紹介し合いませんか。

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学教育学部附属山口小）

西田智行（下関市立垢田小）

=====